

生活保護費、引き下げないで

(横浜市鶴見区 63)

2013年度政府予算案で、生活保護の給付水準引き下げが決まった。

私は川崎の診療所で管理栄養士として食事のカウンセリングを担当。その中に2カ月一度の割合で相談に来る36歳の男性がいる。小学生のころから腎不全で痛風とも闘い、唯一の肉親である父親は福島放射能汚染除去作業で別居。男性は病気のため働かず、生活保護を受けている。

今年になって、毎日服用

すべき降圧剤をあまり飲んでいないことを知った。10月以来、診療所にも通っていないという。聞いてみると「生活保護に対する世間の目が厳しくなって遠慮している」と言う。受給の後ろめたさや希望のない将来へのいらだちを感じた。「気にしないで薬を飲んで」と言ったが、その言葉がどこまで届いたのか。

不正受給者の存在を理由に生活保護費を削減しようとするのは、懸命に生きている人たちへ命を削れと言うことと同じである。